法廷反して擯斥されるも口を噤んで同志の秘事を語らず婦人稀なる雄々しき態度であつたことに対して要するに注意すべき婦人社会主義者である。

要するに大正十一年度の婦人運動は殆んど新婦人協会の運動に盡きて居るがこれより外四川文子を中心とする新婦人協会も一二回講演会を開ひたが見るべきの反響なく又山田わかも健筆を振ひて奮闘せしも之又何等の反響を起すこともなきず其他上流婦人の活動ありたるも之は殆んど眞正の意味に於て婦人運動と見る程のものではなく大正十二年に於て去来すべき可能性を有するものは坂本眞琴と河本義子等の誘掖運動と婦人聯盟の運動と個人として奥むめお、市川文子、山田わかの、中曽根貞代、堺真柄、山川菊江、千葉見子、山田わかの運動である。

奥むめおは左翼や従来の立場を棄てて直接行動派として現れるか又は単に表面は新思想研究及びこが啓蒙者として現れるか分水嶺上に立つ

大正十二年、婦人運動者